

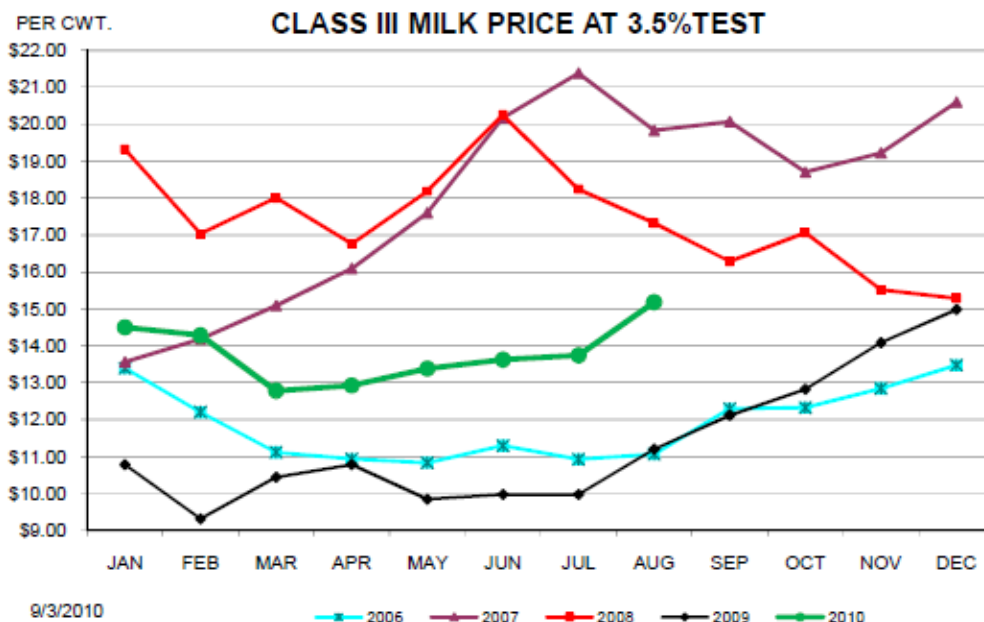
輸入粗飼料の情勢

全酪連購買部
購買推進課

北米コンテナ船情勢

WTSA (Westbound Transpacific Stabilization Agreement) 加盟の船会社が10月1日に予定していたGR I (General Rate Increase : 基礎レート) の\$300値上げは、各船会社の足並みがそろわず、11月1日実施に延期されました。CWTS (Canada Westbound Transpacific Stabilization Agreement) 加盟の船会社のカナダ航路GR I \$200値上げも、同様に延期されました。中西部からの穀類のコンテナ船積みをはじめ、徐々に輸出(米国→アジア)向けの貨物も増えてきていることから、各船会社とも船積みスペースがタイトになりつつあり、フレート値上げが現実のものとなる可能性は残っています。特にPNW出しのスペースのタイト感は顕著に現れており、船積みの遅延も増えてきています。

米国の乳価動向



8月の米国の乳価(上記グラフ参照:クラスⅢチーズ向け)は7月より値上がりしましたが、引続き低調に推移しています。輸出向け乾牧草(特にアルファルファ)

の情勢・産地価格にも大きな影響を及ぼすため、米国の酪農情勢・乳価動向には今後も注意が必要です。

ビートパルプ

<米国産>

主産地では10年産の収穫が進んでいます。製糖とビートパルプ生産も順調に進んでいる模様です。09年産は降雨続きと寒波到来が早く予想よりも収量が多くなかったため、10年産はその反動でビートパルプの生産量は前年対比で増加が見込まれています。

ロシア産小麦など、欧州産穀類の生産量減に端を発した穀物相場の上昇は、ビートパルプの産地価格にも影響を及ぼしています。欧州産、米国産ともに強含みとなっており、荷動きも良くなってきているようです。

<中国産>

10年産の収穫がまもなく始まる見込みです。輸出向けビートパルプの主産地である新疆地区では、前年対比15-20%ほど生産量が増加する見込みですが、国内需要の増加を背景に輸出余力はむしろ低下するとも考えられています。

韓国の輸入統計によると、8月のビートパルプ総輸入量は16,374トンで、そのうち中国産は1,292トンと、引続き全体の1割にも満たない水準となっています。中国産から他産地への移行が着実に進んでいると推測されます。

アルファルファヘイ

<ワシントン産>

先月号までご案内の通り、コロンビアベースンでは収穫時期に断続的に降雨が続いたため、1番刈は約9割が雨あたり品、という最悪な結果に終わりました。2番刈の品質は、夜露による色あせ（ブリーチ）が多く、全体的にドライ気味で花も少しみられるようです。また、今年は1番刈が遅めに刈り取られたため、リレイク（重すぎて倒伏した部分や、きれいに刈り取れなかった1番刈の残り）が多く見受けられます。現在、産地では3番刈の収穫が終了しています。品質については2番刈に比べて茎が細めに仕上がっているようで、色あせ品も多いようです。また、全般的な収穫の遅れから、3番刈の単収は1.2mt/エーカー（例年2.0mt）程度となっており、4番刈を行う圃場も全体の10%程度と限定的になる見込みで、良品はタイト化しています。

1番刈が壊滅的な被害を受け、2番刈以降のプレミアム品の供給量もタイト化しているため、産地価格は強含みで推移しています。

<オレゴン産>

クリスマスバレーでは、3番刈の収穫が9月中旬から開始されています。早めに刈取られた圃場では、雨あたり被害を受けている模様で、全体の20%程度と見込まれています。

クラマスフォールズでは、3番刈の収穫が9月上旬から開始されています。こちらでも一部圃場で雨あたり被害を受けている模様で、全体の20-30%程度と見込まれています。

両産地とも、ワシントン州の1番刈が壊滅的に被害を受けていることから、引合いが非常に強く、産地価格は強含みで推移しています。

<ネバタ産>

ネバタ州では、3番刈の収穫が終盤を迎えています。品質については葉量も多めで、良品も少なくないようですが、全般的な収穫の遅れから、単収はかなり少ない模様です。供給量が少ない中で、国内向けの引合いも徐々に強くなっているため、産地価格は強含みで推移しています。

<カリフォルニア産>

インペリアルバレー産は、現在6番刈の収穫が終了しています。UAEや中国向けの荷動きは、引続き順調な模様です。

北・中カリフォルニア産は、現在5番刈の収穫が進んでいます。国内向けについて、昨年とは異なり、ほとんどの酪農家が在庫を多く抱えていないため、引合いが徐々に強くなっているようです。

<ユタ産>

ユタ州では、現在4番刈の収穫が進んでいます。気温が徐々に下がってきており、全ての圃場で終了するには10月20日ごろまでかかる見込みです。春先からの冷涼な気候により収穫が遅れているため、3番刈で終了している圃場もあるようです。そのため全体の生産量が減少しているうえ、隣接する州でのアルファルファ供給減が予想されるなかで、国内向けの引合いも徐々に強くなっているため、産地価格は強含みで推移しています。

チモシー

<米国産>

ワシントン州コロンビアベースン、エレンズバーグともに2番刈の収穫が終盤を迎えています。9月中旬に降雨に見舞われたため、コロンビアベースンで20%前後、エレンズバーグでは50%程度の雨あたり被害を受けている模様です。

日本向けの船積みは、徐々に落ち着きはじめましたが、カナダ産の状況も受けて、1番刈ハイグレード品の引合いは引続き堅調な様子です。屋内くん蒸費用が発生する秋以降は荷動きがどのように推移するか、産地の動向には今後も注意が必要です。

<カナダ産>

レスブリッジ（南アルバータ）では、1番刈の収穫が終了しました。降雨の影響もあり、中間グレード品が約60%の割合で発生し、プレミアム品以上が5%程度と非常に限定的となっています。冷涼な気候の影響で、単収は昨年並みの2.5mt/エーカー（例年3.0mt）となっています。

ドライランド（中央アルバータ）でも、1番刈の収穫がほぼ終了しています。中間グレード品が約65%、プレミアム品以上が20%程度の割合で発生しています。こちらも冷涼な気候の影響で、単収は2.5mt/エーカー（例年2.7-3.0mt・昨年1.3-2.0mt）となっています。

作付面積は微増したものの、天候不良による単収減により、全体の生産量としては過去15年で最低レベルとなっております。そのため、両産地とも産地価格は強含みで推移しています。



中央アルバータ チモシー検品写真 9/21撮影

スーダングラス

<インペリアルバレー産>

10年産のスーダングラス作付面積については、6/15時点の53,047エーカーをピークにその後減少しています。1番刈の品質については、色青めのスタンダードカラー品（柔らかく葉が多い傾向）の発生量が多く、日本から引合いが強い色抜け品の発生量は少ないようです。産地では2番刈の収穫が終了しています。冷涼な気候のなかでも、例年の2番刈と比較すると良品の発生量も多いとの情報もありますが、ローグレード品中心の傾向には変わりはないようです。色抜け品や茎細品への引合いが強いため、作付面積のピークが31,963エーカーだった09年産より生産量は多いにもかかわらず、スーダングラス全体の産地価格は高く推移しています。

<北カリフォルニア産>

想像以上に冷涼な気候が続き、1番刈の収穫が非常に遅れています。全ての圃場で終了するには10月中旬までかかる見込みですが、10月は降雨続きの天候が予想されているため、収量に関係なく9月中には刈取りをほとんどの圃場で終わらせている見込みです。品質については、インペリアルバレーと同様に、茎細品は少なく、色抜け品の発生も少ない模様です。単収も約2.0mt/エーカー（例年2.7mt）となっており、2番刈を行う圃場も限定的になる見込みなので、産地価格は強含みで推移しています。



北カリフォルニア スーダングラス検品写真 9/6撮影

<ワシントン産>

先月号でご案内の通り、10年産はエレンズバーグでトウモロコシからの転作が多く、作付面積が大幅に増えています。品質については、茎細品は少なくローグレード品が中心で、色は青めのスタンダードカラー品が中心ですが、柔らかく葉が多い傾向のようです。不足気味のインペリアルバレー産や北カリフォルニア産の代替

として期待されて、日本からの引合いも増えているようです。しかしながら、生産農家もサプライヤーも保管倉庫はチモシーやアルファルファを最優先に使用するため、スーダングラスは例年、冬場までの早めの船積みが求められる傾向にあります。春先以降も（11年産以降も）安定的に供給されるか、新しく長期的に取扱いを検討する場合は、品質を含めて注意と理解が必要です。



エレンズバーグ スーダングラス収穫作業



検品写真（スタンダードカラー品） 9/9撮影

クレイングラス（クレインは全酪連の登録商標です）

インペリアルバレーでは、現在4番刈が終了し、5番刈の収穫が進んでいます。春先の冷涼な気候と遅れ気味な収穫の影響で、今年のクレイングラスは4番刈で終了する圃場が多く、5番刈を行う圃場は、全体の50%程度の見込みです。3番刈の品質は、茎が硬めのものが多く、また生育中や刈取り後の乾燥中に多湿だったため、色あせ（ブリーチ）品が多く発生しているようです。4番刈の品質は、引続き色あせ品がみられるものの、気候が良くなってきたこともあり、茎の硬さは若干改善されているようです。

10年産のクレイングラスの生産量については、作付面積の減少と春先からシーズンを通しての低温傾向による単収減で、09年産に比べて大きな減産が見込まれているため、産地価格は強含みで推移しています。

ストロー類

フェスキュー、ライグラスともに刈取りが終了し、ストローの収穫も終了しています。ともに作付面積は前年対比20-30%減で、繰越在庫もほとんどなく、供給数量の不足が懸念されることから、産地価格は今後横ばいか値上げで推移すると予想されていますが、日本向けの荷動きが引続き鈍化しているため、現時点では若干弱含みで推移しています。

豪州産オーツハイ

各産地共通の問題として、豪州ドル高（対米国ドル）、豪州航路のフレート高、09年産オーツハイの繰越在庫がほとんどない（特にハイグレード品）ことの三点が挙げられます。加えて作柄不良も伝えられているため、10年産の豪州産オーツハイは大幅に高騰するとの見方が大勢を占めています。



外国為替 豪州ドル／米国ドル

<西豪州>

降雨不足・早魃傾向は深刻化しています。既に立ち枯れも発生しており、収量に関係なく収穫を始めた圃場も多く、北部では9月20日前後から収穫が開始されています。単収は例年より大幅に少なくなり、3-4mt/h a程度（09年産は7-8mt/h a）になると予想されています。南部では更に深刻で、単収が2mt程度の圃場も多くあるようです。西豪州全体で生産量がどれほど落ち込むか、また生産農家は大幅な値上げを要求しているため、産地価格はどこまで高騰するか、今後の動向に注意が必要です。



西豪州北部 オーツハイ圃場 10年9/26撮影



西豪州北部 オーツハイ圃場 09年9/28撮影

<南豪州>

豪州各産地のなかで、生育状況は最も良好な模様です。8月にも十分な降雨があり、このまま順調に推移すれば、単収は例年並みになることが予想されています。

<東豪州（ヴィクトリア州）>

降雨量が多かったため、作柄・品質が少し不安視されていますが、生育は順調な模様です。一部地域では大雨の影響で生育が1－2週間ほど遅れているとの情報もあります。

以 上